

## 議事録（要約版）

令和6年度みのかも定住自立圏 首長・ビジョン懇談会委員意見交換会	
日 時	令和7年2月5日（水）10時40分～12時05分
場 所	美濃加茂市生涯学習センター6階
出席者	別紙のとおり
資 料	1.次第 2.資料1_みのかも定住自立圏 首長・ビジョン懇談会委員意見交換会【未来のヒトづくり分野】 3.資料2_里山まちづくり事業報告 4.別紙_出席者名簿
議事内容（要約版）	
美濃加茂市長	・瀧澤委員には、毎年自治会長の始めの集まりでお話しいただいている。初めは嫌々だった自治会長が、地域の重要性を認識し、自分の自治会から美濃加茂市と地域を元気にする活動を開始するような動きが繰り返されるようになった。 ・外的なサービスの向上や効率化だけでなく、地域の大切さについて住民の意識を取り戻すことが重要である。
瀧澤委員	・自己紹介。NPOという立場のため、伴走型で地域とお付き合いをしている。 ・市民が自分たちの集落をどうするかということを具体的に考えてもらえるような風土をどう作れるかが重要である。 ・地域の文化や風習、自然環境など、経済的価値で表すことができないものをどうやって住民が自分達で決めながら運営していくかというのが自治の基礎だと思う。 ・教育をどうやってもう一度地域に取り戻すかということが重要である。 ・世代と世代をどう結び付けるかということを考えていく必要がある。 ・外国人も含めて、幼少期から地域の一員だという自覚をどうやって持たせるか、政策の中に巻き込んで同じ住民として一緒に向き合っていけるかという視点が必要である。
川辺町長	・岐阜のグランドキャニオン等の7つの里山をそれぞれのボランティアが整備している状況である。 ・音楽フェスなどのイベントを通じて地域資源の再発見を促進している。
白川町長	・まごまご里山留学について、子ども達に白川町を印象づけるために始まった事業である。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生が修学旅行先の大坂のカフェで、白川茶をプロモーションした結果、白川茶を使っていただけたことになった。</li> <li>・これからは、小学生、中学生、高校生とのふれあいを通じて、いろいろなことを一緒に考えていきたい。</li> </ul>
東白川村長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住者とのコミュニケーションの場として美しい村づくり委員会という取組を行っている。</li> <li>・「暦くらす」の取組について紹介。地元の経験がある方を講師にして、こんにゃく作りや味噌作りを移住者や地元の若い世代に伝承している。</li> <li>・美しい村づくり補助金の取組について紹介。今まで、バイケイベントの開催や労働者協同組合の開設、中学生へのプログラミング教室など認定した。</li> <li>・人口が減っていくのは止められないため、いろいろな団体が活動することできやかになってほしいという思いで取り組んでいる。</li> </ul>
坂祝町長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏祭りや日本ライン復活に関する取組など、地域住民が自発的に活動した事例を紹介。</li> <li>・地域住民の思いを行政としてバックアップしていくというスタイルをとっている。</li> </ul>
富加町長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・椎茸の菌打ちや鮎の放流など、地域の学校教育活動に関する取組を紹介。</li> <li>・地域、学校、家庭、行政が、富加町が好きな子どもを育てるということを通して、地域の人々のつながりをつくる活動を実施している。</li> </ul>
七宗町長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森に関心を持ってもらうためのイベントや担い手の育成の取り組みを紹介。</li> <li>・七宗町まち・ひと・しごと創生総合戦略でも安定した雇用の創出、農林業の振興として農林業生産資源の向上をめざし、町有林を主体とした森林の有効活用を調査し、整備することで、担い手の育成に努めていきたいと考えている。</li> </ul>
八百津町長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民が主体となって実施しているイベント（ヘボ祭り）について紹介。</li> <li>・住民の自主的な活動を支援する補助金の取組について紹介。道路に桃花を植える、お比丘尼さまの復活などの取組を実施。</li> </ul>
瀧澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間がお互いの顔をみて付き合える最大人数は1,000人ほどのため、800人や500人くらいが地域でやっていく自治にはよい数字だと思う。</li> <li>・今はほとんど団塊の世代が担っている。地域の自治に女性を含めた40代50代の世代をどうやって組みこんでいくかを考えていく必要がある。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域外の人を受け入れ、一緒にものを考えていくことが重要である。</li> <li>・学校教育と社会教育について、地域が学校と一緒に教育をしていく主体としてどう関われるか考えていく必要がある。</li> <li>・子ども達を地域に育てない限り、なかなか U ターンでは戻ってきてくれない。I ターンで時間を稼ぎながら、今の子ども達をどう定着させるかと一緒に考えていただければと思う。</li> </ul>
八百津町長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生が地元の人と蜂蜜作り、ヘボ作り、産業文化祭での豚汁作りなど実施している。町の行事、学校の行事を一生懸命やってくれているということで大変関心をもっている。</li> </ul>
坂祝町長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会の活動について、住民の気持ちを昂らせる秘訣を教えていただきたい。</li> </ul>
瀧澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう一度、自分達の暮らしのベースを自分達でつくるというところから自治を考えていくことが必要である。そうしないと、いつまでもやらされている感で自治が進まない。</li> </ul>
美濃加茂市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食に圏域の食材を活用するということについてご意見をいただきたい。</li> </ul>
瀧澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだ正解はなく、地域によって異なる。</li> <li>・学校給食に関する他地域の事例を紹介。</li> <li>・先ほど、八百津町長から豚汁作りの話が出たが、そのような取組みを教育に落とし込むことができればいい。</li> <li>・例えば、ヘボとりについては理科も社会科も関係する。そこに住民も参加できる。</li> <li>・今は教科担当制になっているが、ヘボとりや豚汁作りのような取組は子ども達にとって最大の学び場になる。授業の一環としてカリキュラムに入れることができるといいと思う。</li> </ul>

# 別紙

## 令和6年度みのかも定住自立圏 首長・ビジョン懇談会委員意見交換会 出席者名簿

日 時：令和7年2月5日（水）  
10時30分～12時00分  
場 所：美濃加茂市生涯学習センター6階

	所 属	職 名	氏 名（敬称略）
1	特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク	理事長	しぶさわ じゅいち 瀧澤 寿一
2	美濃加茂市	市長	ふじい ひろと 藤井 浩人
3	坂祝町	町長	いとう たかひろ 伊藤 敬宏
4	富加町	町長	わたなべ けいた 渡邊 圭太
5	川辺町	町長	さとう みつひろ 佐藤 光宏
6	七宗町	町長	かのう よしあき 加納 福明
7	八百津町	町長	かねこ まさのり 金子 政則
8	白川町	町長	さえき まさたか 佐伯 正貴
9	東白川村	村長	いまい としろう 今井 俊郎